

資料編

資料1:04年度 入学者選抜の概要(学部)	1
04年度 入学者選抜の概要(研究科)	
資料2:年度別県内外別入学者の状況(学部・研究科)	3
資料3:平成15年度入学者の選抜種別志願入学状況	4
資料4:学校推薦入学について	5
資料5:自己推薦入学について	7
資料6:一般選抜について	9
資料7:特別選抜について	10
資料8:学校推薦入学の効果	11
資料9:入試改善プロジェクトチーム「検討結果と改善実施状況	12
資料10:「学校推薦」と「一般選抜」入学者の入学後の 成績状況調査	17
資料11:入試委員会規程	19
資料12:入試情報公開・開示取扱要綱	20
資料13:ホームページ「入試情報」(抄)	22
資料14:年度別退学種別退学者数(平10~14年度)	26
資料15:理由別退学者数等調(平10~14年度)	27

資料1：04年度 入学者選抜の概要（学部）

選抜区分		募集人員	出願期間	選抜方式	試験日	試験地	合格発表	入学手続
推薦入学	学校推薦	130名	11月4日(火) ～ 11月11日(火)	書類審査	面接等は課さない		11月17日(月)	11月17日(月) ～ 11月25日(火)
	一般自己推薦	20名	11月4日(火) ～ 11月11日(火)	書類審査 小論文 面接	11月23日(日)	青森市	11月28日(金) 〔2段階選抜を行う場合の 第一次選抜結果の通知日は 11月14日(金)〕	11月28日(金) ～ 12月5日(金)
	特別自己推薦	若干名 (特別自己推薦の募集人員は、一般自己推薦の募集人員に含まれる。)	11月4日(火) ～ 11月11日(火)	書類審査 小論文 面接	11月23日(日)			11月28日(金) ～ 12月5日(金)
一般選抜	前期日程	130名	1月26日(月) ～ 2月4日(水)	センター試験 (3科目) 数学①群から1、 外国語(英) 国語又は数学②群から1 ----- 総合学力試験	2月25日(水)	青森市 弘前市 八戸市 東京都	3月8日(月) ～ 3月15日(月)	
	後期日程	20名		センター試験 (3科目) 数学①群から1 外国語(英)、国語	2次試験は課さない		3月20日(土)	3月20日(土) ～ 3月26日(金)
特別選抜	海外帰国子女	若干名 (特別選抜の募集人員は、一般選抜の前期日程の募集人員に含まれる。)	1月26日(月) ～ 2月4日(水)	書類審査 小論文 面接	2月25日(水)	青森市	3月8日(月)	3月8日(月) ～ 3月15日(月)
	社会人			書類審査 総合学力試験 面接				
	外国人留学生		11月25日(火) ～ 12月2日(火)	書類審査 小論文 面接	12月11日(木)	青森市	1月23日(金)	1月23日(金) ～ 2月6日(金)

- 注
1. 本学の推薦入学および特別選抜の出願者には、大学入試センター試験を課さない。
 2. 本学の「推薦入学」の対象者は、「学校推薦」にあつては青森県内の高等学校若しくは中等教育学校を、2004年3月に卒業見込みの者、「一般自己推薦」にあつては全国の高専若しくは中等教育学校を、「特別自己推薦」にあつては函館圏公立大学連合構成市町(函館市、上磯町、大野町、七飯町、戸井町)の高等学校若しくは中等教育学校を、それぞれ2004年3月に卒業見込みの者および2003年3月に卒業した者とする。
 3. 本学の「自己推薦」と「一般選抜」の併願は差し支えない。
 4. 自己推薦においては、一般自己推薦及び特別自己推薦の出願者の合計が募集人員の2倍を超えた場合は、2段階選抜を行う場合がある。
 5. 本学又は他の国公立大学・学部の推薦入学合格者は、当該推薦入学を実施する大学・学部の定める推薦入学辞退手続により入学辞退を許可された場合を除いて、本学の第2次試験を受験してもその合格者となることはない。
 6. 一般選抜は、大学入試センター試験を課し、「前期日程」および「後期日程」による分離分割方式とする。
 7. 本学の「前期日程」に出願した者は、他の「前期日程」の大学・学部に出願できない。また、本学の「後期日程」に出願した者は、他の「後期日程」の大学・学部に出願できない。
 8. 本学の「前期日程」と「後期日程」の併願は差し支えない。
 9. 前期日程において、大学入試センター試験の選択教科を2科目受験した場合は、得点の高い科目を採用する。
 10. 本学又は他の国公立大学の前期日程試験に合格し、2004年3月15日(月)までに入学手続を行った者は、本学の後期日程試験を受験してもその合格者となることはない。

04年度 入学者選抜の概要（研究科）

1 基本方針

- (1) 選抜区分、募集人員、出願資格、選抜方法は、03年度選抜方針と同様、下記のとおりとする。
- (2) 一般選抜及び社会人特別選抜は11月中旬に実施する。なお、欠員が生じた場合は、2月上旬に2次募集を行う。
- (3) 学内特別選抜は、2月上旬に行う。この際、欠員が生じても2次募集は行わない。
- (4) 選抜に係る日程は、下表のとおりとする。

2 選抜区分、募集人員及び選抜方法

選抜区分	募集人員	選抜方法	備 考
一般選抜	5名	書類審査	大学院説明会への出席を選考の要件とする。
社会人特別選抜	5名	書類審査	
学内特別選抜	10名	書類審査	

3 出願資格

- (1) 一般選抜 下記①～⑤のいずれかに該当する者
- (2) 社会人選考選抜 下記①～⑤のいずれかに該当する者で、2004年4月1日現在において社会人として2年以上の勤務経験を有する者
- (3) 社会人推薦選抜 下記①～⑤のいずれかに該当する者で、青森県内の企業又は自治体等の勤務先から在職のまま派遣される者
 - ① 大学を卒業した者及び2004年3月までに卒業見込みの者（出身学部を問わない。経営・経済学系の学部に限らず、理工系等の学部出身者であっても可）
 - ② 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者及び2004年3月までに授与される見込みの者
 - ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2004年3月までに修了見込みの者
 - ④ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑤ その他本学において、大学を卒業したものと同等以上の学力があると認められた者
- (4) 学内推薦選抜 2004年3月に本学学部を卒業見込みの者

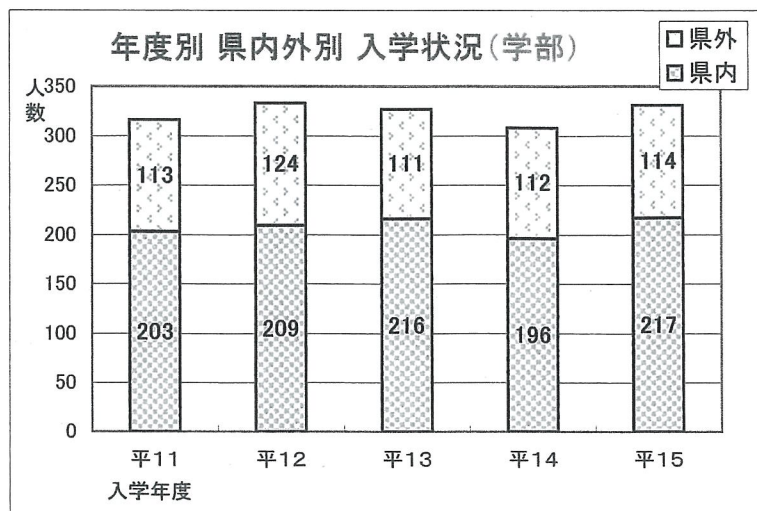
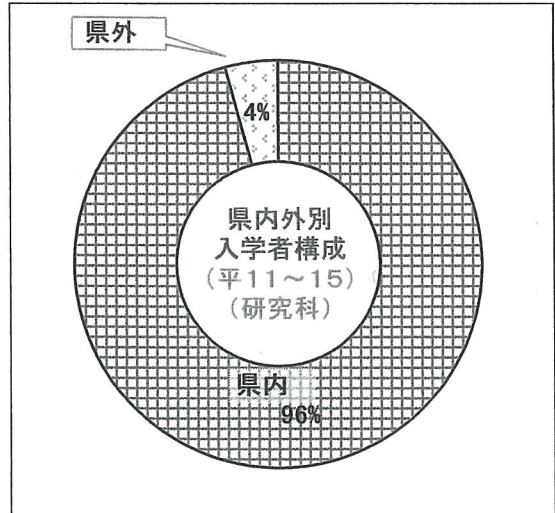
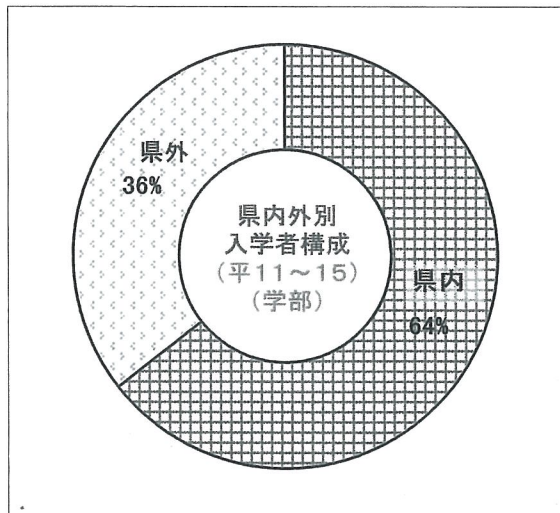
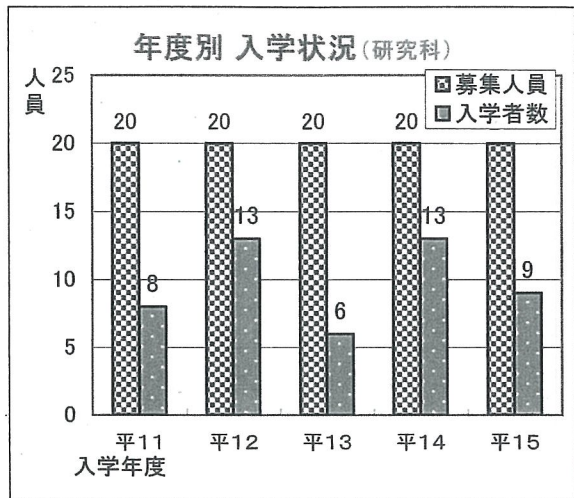
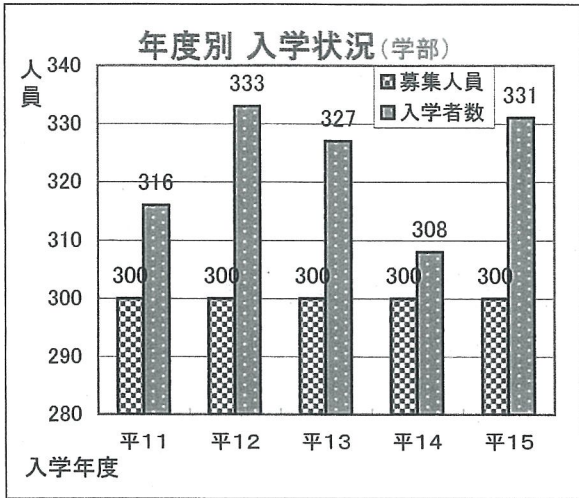
4 選抜に係る日程

	日 程	事 項
1 次 募 集	10月27日（月） ↓ 11月 4日（火）	出 願 受 付 ↓ 出 願 締 切
	11月15日（土）	大学院説明会・個別相談会
	11月21日（金） ↓ 11月28日（金）	合 格 発 表 ↓ 入 学 手 続 き 締 切
	1月20日（火） ↓ 1月27日（火）	出 願 受 付 ↓ 出 願 締 切
2 次 募 集	2月 7日（土）	大学院説明会・個別相談会
	2月13日（金） ↓ 2月20日（金）	合 格 発 表 ↓ 入 学 手 続 き 締 切

資料2：年度別県内外別入学者の状況(学部・研究科)

		平11	平12	平13	平14	平15	合計	
学部	募集人員	300	300	300	300	300	1500	
	入学者数	合計	316	333	327	308	331	1615
		県内	203	209	216	196	217	1041
		県外	113	124	111	112	114	574
研究科	募集人員	20	20	20	20	20	100	
	入学者数	合計	8	13	6	13	9	49
		県内	8	12	5	13	9	47
		県外	0	1	1	0	0	2

注) 県内外別区分は、出願時居住地による。



資料3：平成15年度入学者の選抜種別志願入学状況

(平15.4.1日現在)

選抜区分	募集人員	日程	選抜方法(審査書類)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学者内訳			
推薦入学	学校推薦	出願11・1 ～11・8 試験なし 合格発表 11・16	・書類審査のみ 志望理由書(本人自筆) 活動報告書(本人自筆) 志願者推薦理由書 校長推薦書、調査書	人 135 (78)	人 135 (78)	人 135 (78)	人 135 (78)	東青 県内	51 84	推薦校数: 52校(63%) (昨年度 =55校)	
	(自己推薦) (一般・特別)	出願11・1 ～11・8 試験 11・24 合格発表 11・28	・書類審査 自己推薦書(本人自筆) 活動報告書(本人自筆) 調査書、(資格証明書) ・試験 小論文、面接	32 (15)	32 (15)	22 (12)	22 (12)	東青 県内 県外	4 6 12	(県外) 北海道:1 岩手:2 福島:2 宮城:2 山形・秋田、 新潟・静岡、 兵庫 各1	
一般選抜	前期日程	出願1・27 ～2・5 試験(2次) 2・25 (青森・弘前・八戸) 合格発表 3・7	・入試センター試験 数①、数②または国、英語 (50+50+200=300点) ・総合学力試験 (150点) (総点:450点) ・書類審査 志望理由書、調査書	561 (190)	507 (168)	202 (63)	159 (50)	東青 県内 県外	35 33 91	(県外) 北海道:18 岩手:28 秋田:11 山形:6 福島:6 宮城:3 栃木:2 新潟:2 静岡:4 茨城:2 福井:2 富山:2 ほか:14 計:100	
	後期日程	出願1・27 ～2・5 試験なし 合格発表 3・20	・入試センター試験 国、数①、英語 (100+50+300=450点) ・書類審査 志望理由書、調査書	174 (64)	174 (64)	41 (15)	13 (2)	東青 県内 県外	2 2 9		
	小計	150			735 (254)	681 (232)	243 (78)	172 (52)	東青 県内 県外		37 35 100
特別選抜	海外 女子 女婦	出願1・27 ～2・6 試験	・書類審査 ・小論文 ・面接	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	社会人 入学	2・25 合格発表 3・7	・書類審査 志望理由書、活動報告書 ・総合学力試験 ・面接	2 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	県外	1		
	外国人 留学生	出願11・25 ～12・2 試験 12・12 合格発表 12・27	・書類審査 志望理由書、活動報告書 日本留学試験 (日本語、総合科目、数学コース1) TOEFLまたはTOEIC ・小論文(日本語) ・面接(日本語)	3 (2)	3 (2)	1 (0)	1 (0)	韓国	1 (0)		
総計	300			907 (350)	853 (328)	402 (168)	331 (142)	東青 県内 県外	92 125 114	27.8% 37.8 34.4	
				昨年度	851 (323)	801 (303)	372 (155)	308 (133)	東青 県内 県外	83 113 112	26.9% 36.7 36.4

() = 女の数(再掲)
県内 = 東青以外の県内

資料4：学校推薦入学について

I、本学独自の「学校推薦入学」の趣旨

本学は、開学の理念に基づき、地域に開かれた公立大学として、地域に貢献する使命を有している。その方針の一環として、地域（青森県）の子弟に高等教育の機会を広く提供するとともに、青森県の大学進学率の向上に資し青森県高等学校教育の活性化に貢献することを目的に、募集人員の約45%（130名）という大量の枠を設定し、青森県の全高等学校（のみ）を対象に、高校長の推薦に基づく推薦入学を実施している。

選抜にあたっては、事前に高等学校と十分に連絡相談のうえ、本人からの出願書類及び調査書のみで（面接、試験等を課すことなく）、高校長の推薦の信頼のもとに入学を許可している制度であり、開学年度から継続して実施している。

II 推薦要件

(1) (生徒に対して)

本学における教育システムを十分に理解した上で、本学での勉学を強く志望し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。

(2) (校長に対して)

高等学校長が、本学の教育理念及び教育システムに対応できる資質と基礎学力を有するものと判断し、責任をもって推薦できる者。

※ 基礎学力の判断基準

- ① 英語＝PRE-TOEFL 400点以上、
実用英語検定準2級以上、TOEIC(IP) 375点以上、
国連英検（国際連合協会公用語英語検定試験）C級以上 のいずれか。
- ② 数学＝本学で作成する「数学参考問題集」（数学I、数学Aを中心に作成）を、自力で解けること。

III. 選抜方法

「原則として、各高校から1校1名は推薦入学者を得たい」という基本方針のもとに、大学入試センター試験、総合学力試験、小論文及び面接のすべてを免除し、次の書類により審査を行っている。

- ① 志望理由書(本人自筆) ② 活動報告書(本人自筆)
- ③ 調査書(学校) ④ 志願者推薦理由書(担任) ⑤ 推薦書(校長)

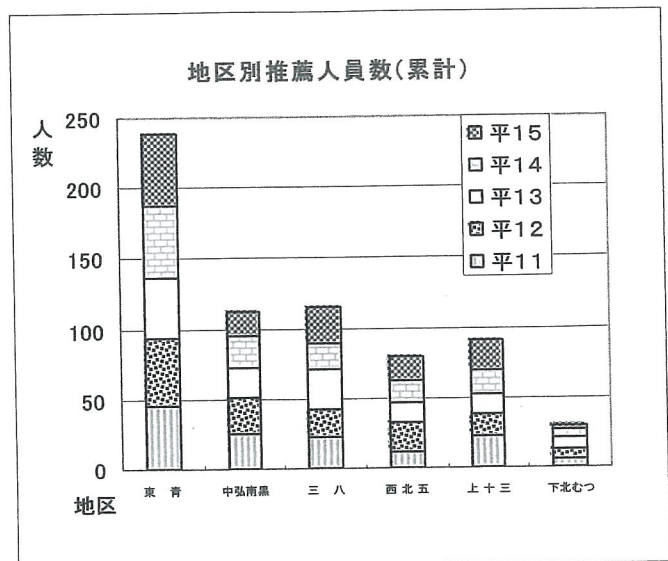
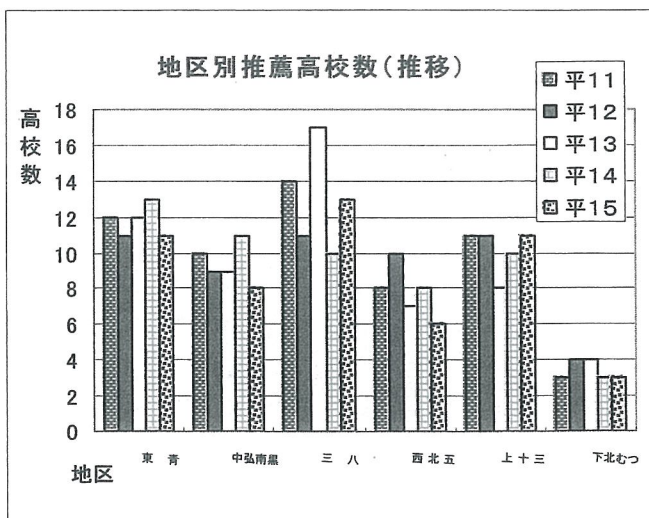
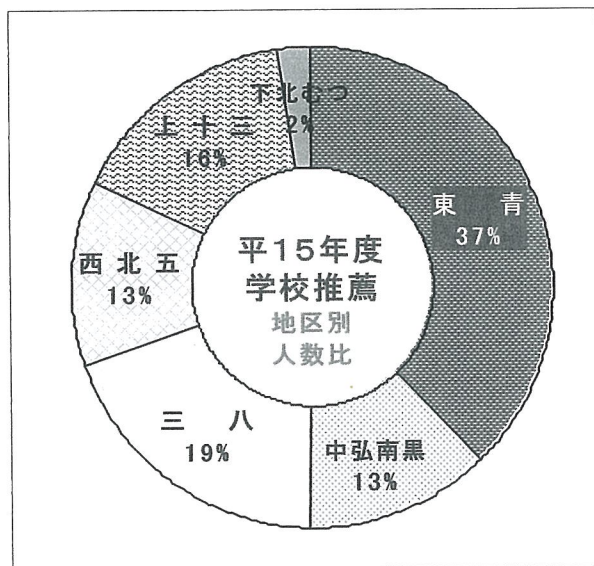
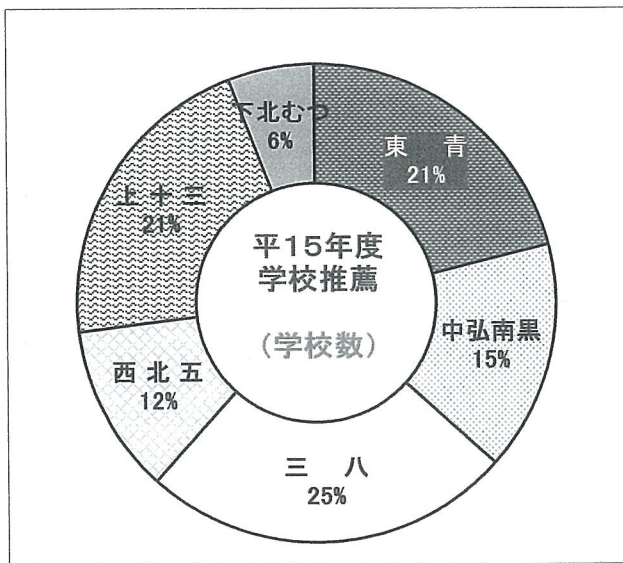
IV. 入学特待生制度

学校推薦入学者のうち、成績・人物ともに優秀な者を「入学特待生」とし、在学中の学納金の全額を免除する制度が発足した。

「学校推薦入学」の累年推移

入学年度	設置 校数	1999		2000		2001		2002		2003	
		平11		平12		平13		平14		平15	
地区		校	人	校	人	校	人	校	人	校	人
東青	17	12	45	11	49	12	42	13	51	11	51
中弘南黒	16	10	26	9	25	9	22	11	22	8	17
三八	21	14	23	11	19	17	29	10	18	13	26
西北五	13	8	12	10	20	7	15	8	16	6	17
上十三	13	11	23	11	15	8	15	10	17	11	21
下北むつ	6	3	6	4	7	4	9	3	5	3	3
入学者	86	58	135	56	135	57	132	55	129	52	135
実・志願者	—	59	163	56	162	58	158	56	144	54	188

実・志願者＝各校の入学枠決定前の希望者の段階の数



資料5：自己推薦入学について

自己推薦入学について（「特別自己推薦入学」を含む）

- (1) 全国から公募（「特別自己推薦入学」は下記）
- (2) 学校の推薦は行わない。自分の意思で自分を推薦する。
- (2) 「面接」と「小論文」だけで選抜する。

「求める学生像」（2つのタイプがある）

1. 地元を根ざし、指導的存在として、地域社会へ貢献する意欲があるもの
2. 得意な能力や技能を生かして、専門的職業人としての活躍を目指すもの

※ 応募資格（次の4つのうちいずれか1つあればよい。）

1. 高校の特別活動で顕著な指導力を発揮し活躍したもの。（全体の評定平均値が3.5以上で、国語、数学、英語のうちいずれか2教科の評定平均値が3.8以上）
2. 地域社会の貢献活動で中核役割を担って活躍したもの。（全体の評定平均値が3.5以上で、国語、数学、英語のうちいずれか2教科の評定平均値が3.8以上）
3. 次のいずれかの資格を持ち、全体の評定平均値が3.5以上のもの。
 - ア. 日商簿記検定2級以上または全商簿記検定1級
 - イ. 第2種情報処理技術者
 - ウ. TOEFL 420点以上、英検2級以上、TOEIC・国連英検C級以上
4. 全体の評定平均値が4.0以上で、国語、数学、英語のうちいずれか2教科の評定平均値が4.5以上のもの

◎ 「特別自己推薦」

青森市と函館市とが「ツイン都市協定」が結ばれていることにかんがみ、平成13年度「はこだて未来大学」の開学に際し、両大学が相互に相手側地域の高等学校生に対し、特別の枠を設けて「自己推薦」を行うことを協定したもの。

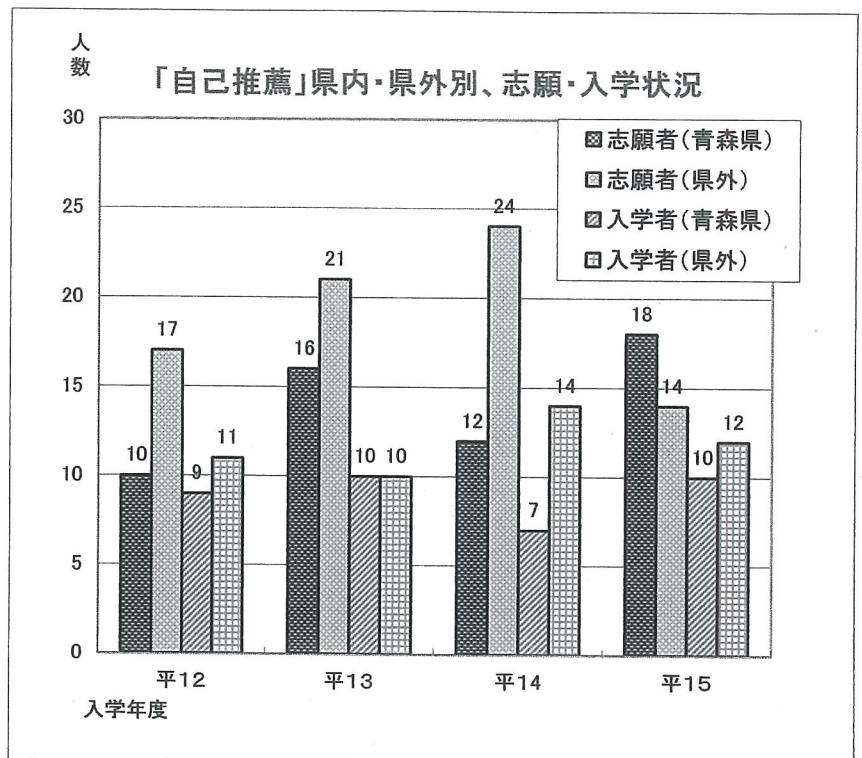
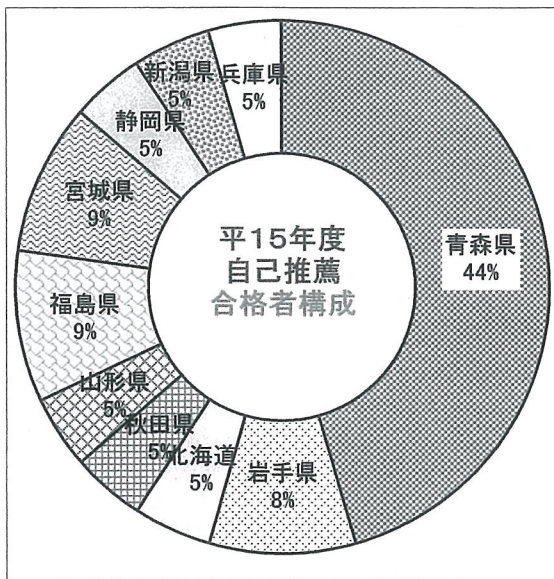
枠は互いに若干名とし、その対象は、大学設置市町村圏域所在の高等学校生とした。（現役）

平15(2003)「自己推薦入学」実施状況

	志願者数	受験者数	合格者数
合計	32	32	22
青森県	18	18	10
岩手県	3	3	2
北海道	1	1	1
秋田県	1	1	1
山形県	1	1	1
福島県	2	2	2
宮城県	2	2	2
静岡県	1	1	1
富山県	1	1	0
新潟県	1	1	1
兵庫県	1	1	1

「自己推薦入学」の推移

	出身地別	平12	平13	平14	平15
志願者数	志願者(青森県)	10	16	12	18
	志願者(県外)	17	21	24	14
	計	27	37	36	32
入学者数	入学者(青森県)	9	10	7	10
	入学者(県外)	11	10	14	12
	計	20	20	21	22



(平成15年度入学選抜) 「自己推薦」の合否判定評価基準(2002. 11. 24)

書類審査 (40点)	調査書	「各教科の評定平均値」欄の「全体の評定平均値」をもって評価した。
	自己推薦書	「志望動機」および「目的意識」の明確さをみた。
	活動報告書	「活動内容」の具体性、努力の内容・程度をみた。
小論文 (100点) (問題添付)	出題のねらいと配点	問題Ⅰ: 本文内容の理解と自分なりに発展させる能力、実生活に適應させる能力をみた。 問題Ⅱ: 複雑多様な現実を一面的に判断する過ちに気づかせる。 人間と自然の関係について、自分の住む地域をどのように発展させるか考える。
		問題Ⅰの問1(20点)⇒固定観念からの脱皮。新たな考え方、発想力。
		問題Ⅰの問2(20点)⇒理想と現実のギャップ。現実問題解決の具体的提案の分析力、創意力。
		問題Ⅱの問1(20点)⇒著者の主張を的確に整理し把握する力。
		問題Ⅱの問2(40点)⇒主張を踏まえて、自分なりの開発プランを考案。(発想力、分析力、構成力)
面接 (70点)	個別質問	「志望動機」および「目的意識」の明確さをみた。
	集団面接	話そうとする意欲、聴こうとする姿勢、話の論理性と説得力および表現の明確さをみた。
総合計 (210点)	総合得点状況 (合格者)	最高点=168点、最低点=119点、平均点=141点

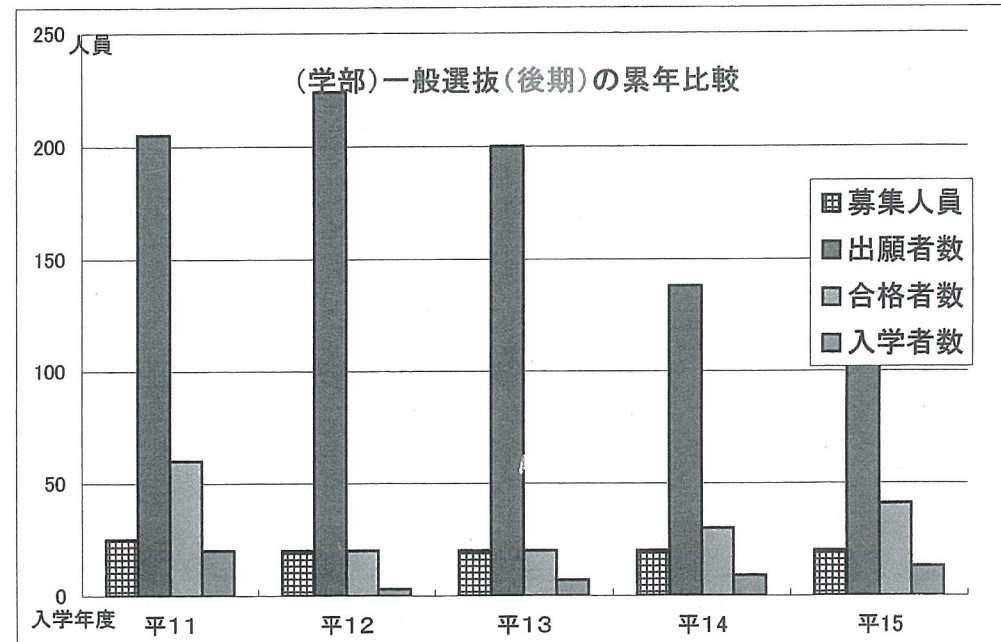
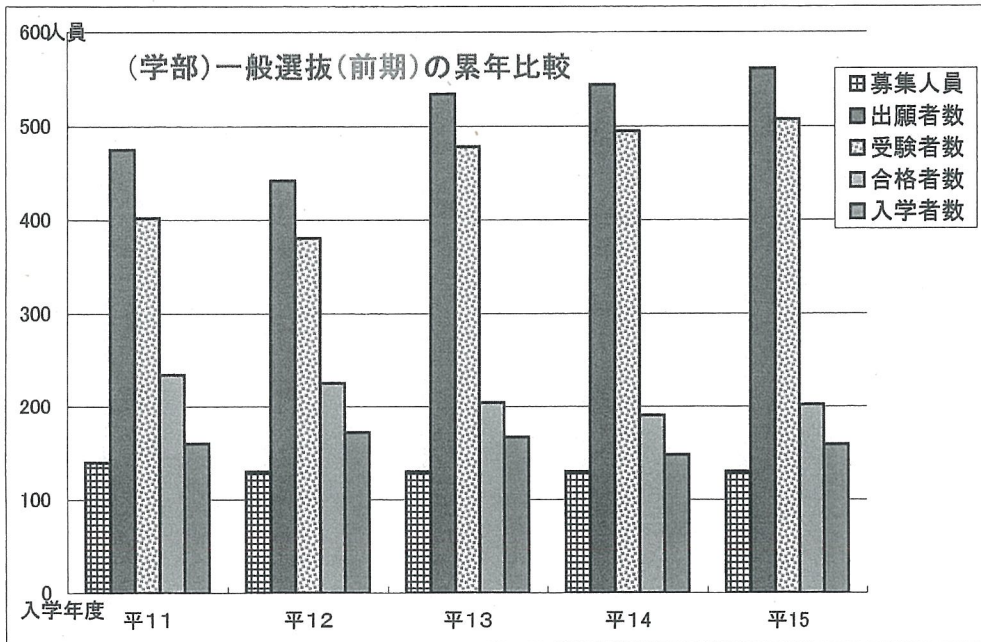
資料6：一般選抜について

(学部)一般選抜(前期・後期・合計)推移 (平11年度入学者(平10年度実施)から)

区分	入学年度	1999	2000	2001	2002	2003
		平11	平12	平13	平14	平15
合計	募集人員	165	150	150	150	150
	出願者数	680	666	734	682	735
	受験者数	402+後期推定数	381+後期推定数	478+後期推定数	495+後期推定数	507+後期推定数
	合格者数	284+追加10	245	224	220	243
	入学者数	170+追加10	175	174	157	172
前期	募集人員	140	130	130	130	130
	出願者数	475	442	534	544	561
	受験者数	402	381	478	495	507
	合格者数	234	225	204	190	202
	入学者数	160	172	167	148	159
後期	募集人員	25	20	20	20	20
	出願者数	205	224	200	138	174
	受験者数	推定数	推定数	推定数	推定数	推定数
	合格者数	60	20	20	30	41
	入学者数	20	3	7	9	13

大学入試センター試験、総合学力試験の配点ウェイト

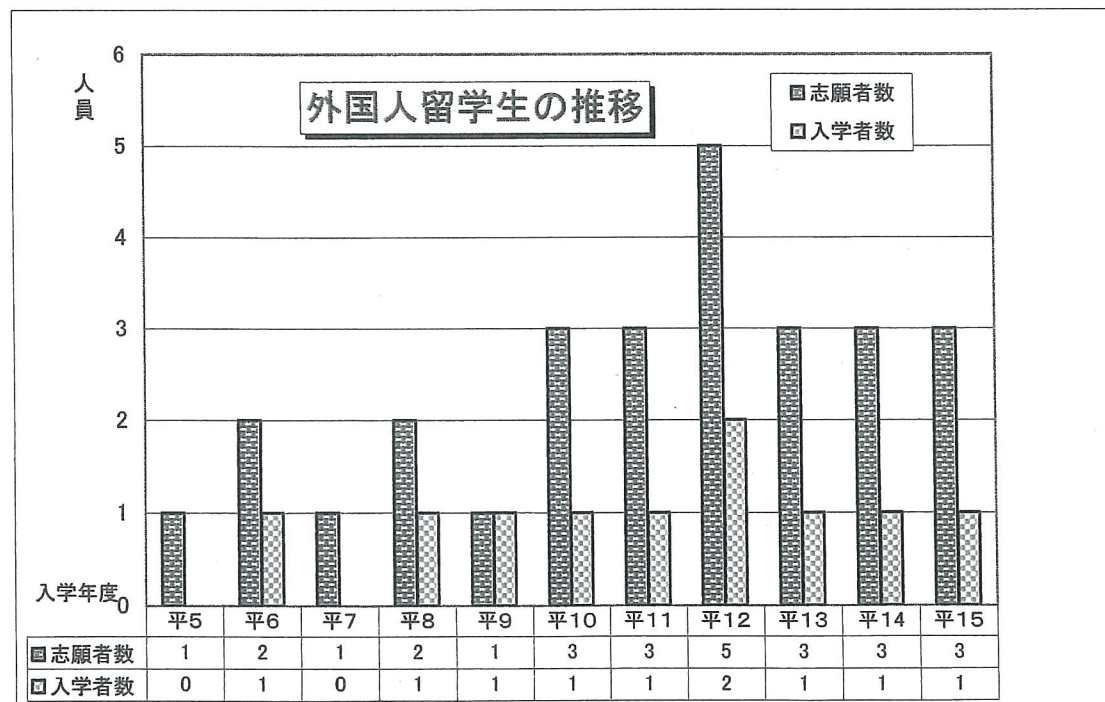
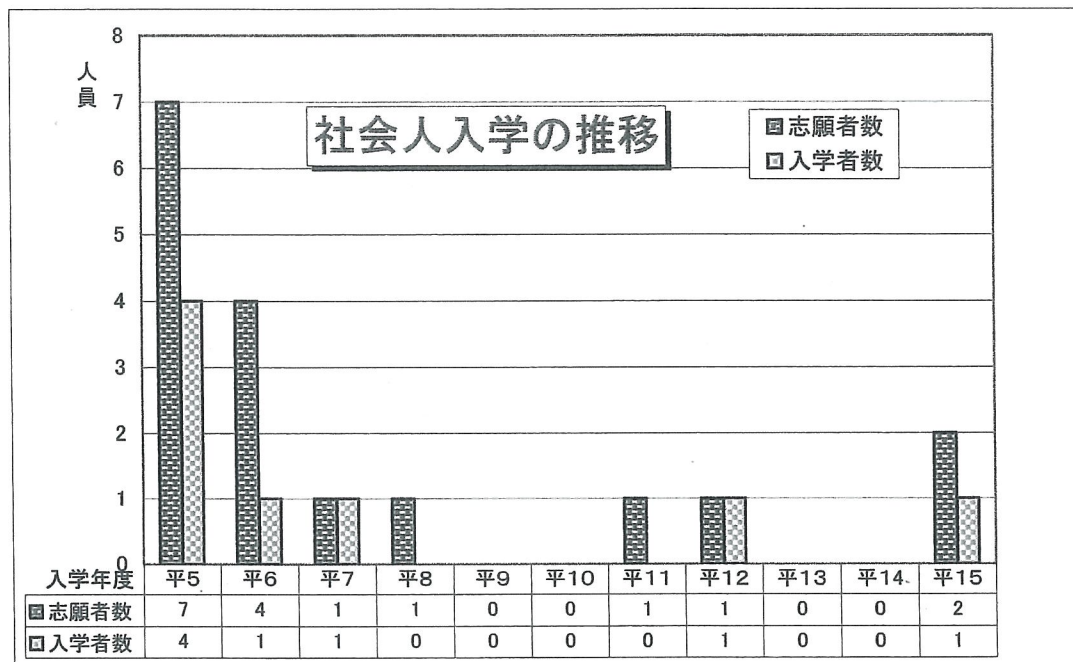
	大学入試センター試験	総合学力試験	合計
前期日程	数学① = 50点 国語又は 数学② = 50点	150点	450点
	英語 = 200点		
	合計 = 300点		
後期日程	国語 = 100点 数学① = 50点	課さない	450点
	英語 = 300点		
	合計 = 450点		



資料 7 : 特別選抜について

(学部)「特別選抜」の選抜区分別実施状況の推移

		平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
社会人入学	志願者数	7	4	1	1	0	0	1	1	0	0	2
	(内:女の数)	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入学者数	4	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1
	(内:女の数)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国人留学生	志願者数	1	2	1	2	1	3	3	5	3	3	3
	(内:女の数)	1	0	0	0	0	2	1	2	1	0	2
	入学者数	0	1	0	1	1	1	1	2	1	1	1
	(内:女の数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



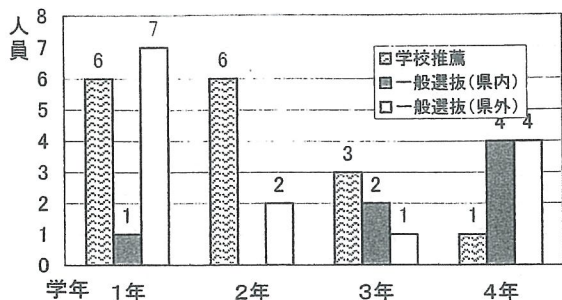
資料 8 : 学校推薦入学の効果

(成績優秀者の輩出、大学進学率の向上)

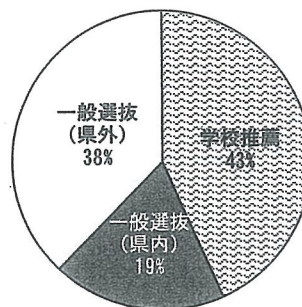
出身高校区分		1年		2年		3年		4年		合計	
学校推薦入学	市部普通	3	戸山、田名部、青森北	4	五所川原、弘中央、戸山(2)	3	弘前中央、五所川原、八戸西			10	
	市部専門			2	青森商業、三沢商業					2	
	郡部	3	大畑、木造、五戸、					1	六戸	4	
	私立									0	
学校推薦		6		6		3		1		16	
一般選抜入学	市部普通					2	田名部、戸山	4	青森北、弘前南、青森東、八戸北	6	
	市部専門									0	
	郡部									0	
	私立	1	山田							1	
	一般選抜(県内)	1				2		4		7	
	一般選抜(県外)	7	県外7		2	県外2	1	県外1	4	県外3、外国1	14
	合計	8		2		3		8		21	
総計		14		8		6		9		37	

(注) (2002 (H14) 春学期 : 成績優秀賞受賞高校と人数)

選抜種別・学年別・県内/外別人数
春



成績優秀賞受賞者
選抜種別・県内/外別構成
春



青森県高等学校卒業者の進学状況推移

(大学+短大+高校専攻科・通信大等)

卒業年度	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
卒業生数	22850	22832	21879	21463	20759	20173	19893	19322	18579	17706	17539	17512	17269
進学者数	5004	5354	5528	5670	5409	5525	5712	5654	5852	5727	5717	5736	5687
本県進学率	21.9	23.4	25.3	26.4	26.1	27.4	28.7	29.3	31.5	32.3	32.6	32.8	32.9
全国平均	31.7	32.7	34.5	36.0	37.5	39.0	40.6	42.4	44.1	45.1	45.1	44.8	44.6

(青森県教育庁刊「高等学校卒業者の進路状況」調査から)

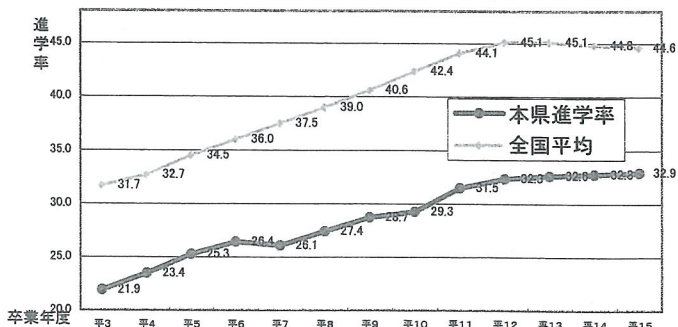
青森県高等学校卒業者の進学状況推移

(四年制大学のみ)

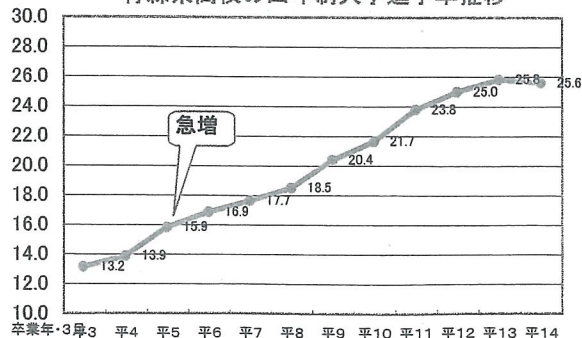
卒業年度	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14
卒業生数	22850	22832	21879	21463	20759	20173	19893	19322	18579	17706	17539	17512
四大進学者数	3008	3171	3469	3626	3665	3735	4058	4184	4419	4422	4530	4480
四大進学率	13.2	13.9	15.9	16.9	17.7	18.5	20.4	21.7	23.8	25.0	25.8	25.6

(青森県教育庁刊「高等学校卒業者の進路状況」調査から)

青森県高校の大学等進学率の推移



青森県高校の四年制大学進学率推移



「学校推薦入学」の効果

- ① 成績優秀者の輩出⇒成績優秀賞受賞者は、一般選抜入学者(県内)よりも推薦入学者のウェイトが高く、しかも、専門高校【商業・工業・農業高校等】や郡部小規模高校出身者からも、毎年、多くの成績優秀者が輩出している。
- ② 大学進学率の向上⇒本学の開設年度の平成5年度に、とくに4年生大学への進学率が2ポイントも上昇し、青森県の進学率向上にハズミをつけた。



青森公立大学入学者選抜改善プロジェクトチーム
検討結果と改善実施状況

2001・4・23まとめ

《2002に一部補足》



青森公立大学入学者選抜改善プロジェクトチーム
 入学者選抜改善検討結果と改善実施状況

検討経過

入学者選抜方法を改善するため、教職員から成るプロジェクトチームを組織し、学長の諮問に基づき検討を行い答申した。

第1次改善プロジェクトチーム(「推薦入学の改善」について)

1999. 4. 15～1999. 5. 24(3回の検討会議) 6月3日答申

(委員: 山崎五郎、吉原正彦、蔵元禮子、佐藤和弘、落合孝彦、藤川直迪、久米田國夫、藤田 智、川村敬貴)

第2次プロジェクトチーム(「一般選抜の改善」について)

1999. 10. 29～2000. 3. 17(6回の検討会議) 4月11日答申

(委員: 山崎五郎、吉原正彦、今喜典、蔵元禮子、落合孝彦、藤川直迪、久米田國夫、藤田 智、川村敬貴)

検討結果と改善実施状況(1999～2000年度における)

第1次改善プロジェクトチーム(「推薦入学の改善」について)

検討結果

1. 現行の推薦入学制度は、当初の目的を十分に達しており、開学時に標榜した「募集定員の50%」まで拡大すべきである

(理由)

① 入学後の学力実態調査結果から見て、推薦入学者は一般選抜入学者よりも学力が劣るという観念は払拭された。

(1) 成績優秀者(累積GPA3.0以上)(第I期生～第VI期生の卒業時の評価分析)

区分	推薦入学者	一般選抜入学者
普通科校(進学校)	10/30=33%	13/55=23%
普通科校(市部校)	69/431=16%	48/362=13%
普通科校(郡部校)	14/129=11%	3/6 = 50%
専門科校(職業校)	27/ 91=30%	0
定時制高校	1/3 =33%	0
私立校《市部》	12/120=10%	4/29=13%
県外高校	—	116/689=16%
合計	133/804=16.5%	184/1141=16.1%

注) 成績優秀者数/入学者総数=成績優秀者の出現率

推薦入学者=16.5% 一般選抜入学者=16.1%

(2) 退学勧告(累積GPA2.0未満、3期連続の成績不良)により退学した者

推薦入学入学者=51人/804=6.34%

一般選抜入学者=75人/1141=6.57%

② 当初の理念(推薦入学で優秀な人材を発掘する)が達せられた。

専門高校や郡部小規模校からの推薦入学者から、成績優秀者が輩出している。

例) 第Ⅱ期生のトップ=商業高校出身 第Ⅲ期生のトップ=工業高校出身

第Ⅳ期生の第2位=農業高校出身 ⇒いずれも推薦入学がなければ入学できなかった学生。

③ 地域の公立大学の使命として、青森県内各地の子弟に大学教育を受ける機会を拡大し、高校教育の活性化と大学進学率の向上に貢献した。

④ 地域企業の要請する「人材の地元定着」に結びついている。

⑤ 高校生急減に伴う入学者の確保策として、推薦入学制度は最も有効である。

2. 目的意識や基礎学力不足の者が推薦されないように、大学の教育理念、基本方針、カリキュラムやGPAシステム等を明確に示し、個別学校訪問(わらじ作戦)により、徹底してPRする必要がある。

3. 学校推薦から洩れた者、特色ある人材を全国から求めるために「自己推薦制度」を取り入れる。

4. TOEFLや実用英語検定だけでなく、TOEICや国際連合協会公用語(英語)検定なども、幅広く推薦基準に取り入れる。

5. AO入試導入の可否も今後検討する。

6. ほこだて未来大学と協調して、数名の相互推薦制度を行う。

改善実施状況 99=1999(平11)年度(00年度入学者)、
00=2000(平12)年度(01年度入学者)
から実施したことを示す。

99① 「わらじ作戦」を実施し、大学のPRに努めた。(県下85校、全校個別訪問)

99② 推薦枠を、当初計画どおり募集定員の50%に拡大した。(45%⇒50%=15名増)

99③ 「自己推薦制度」を創設し全国から公募した。(15名)

99④ 函館圏域の子弟対象に、「特別自己推薦」の枠(数名)を設けて実施した。

00⑤ 学校推薦の英語の基礎学力として、TOEIC(C級以上)と国連英検(C級以上)を採用した。

第2次改善プロジェクトチーム (「一般選抜の改善」について)

検討結果と改善実施状況 (00=2000(平12)年度(01年度入学者)に実施、
未=未実施、×=実施を要しないもの)

(1) 募集方法について

00① 「本学の特色」を明確にし、高校側(教員・生徒)が正確に理解できるよう「広報体制を整備」しPRを徹底する。

(特色=設置目的、運営方針、教育基本方針、教育目標、教育内容、教育方法、
教育実績(進学、就職状況))

00② 本学にとり「望ましい学生像」を明示し適性ある者を志願させる。

(「望ましい学生像」=基礎学力+目的意識+経営経済への適性)

未③ 指導教員のみならず「生徒に直接対話」できる機会を拡充する。一注:02年度に補足↓
(本学についての理解を深めさせ、目的意識・学習意欲を把握) 02から本格的に実施した。

00④ 多様な媒体でのPRが必要。

(わらじ作戦、インターネット、体験入学、広報紙、受験雑誌 ほか)

(2) 選抜方法について

未① AO入試は、学内体制(スタッフ)整備が重要。

(丁寧な選抜を行うための組織体制づくり)

00② 本学の「推薦制度」は、AO入試の先取りであり、この拡充整備が必要。

(「わらじ作戦」で生徒と接する方策。自己推薦枠の拡大、生徒と面談時期の
繰り上げ。)

00③ 「一般選抜」志願者からも目的意識を把握する方策。

(「志望理由書」を提出させる。)

未④ 一般選抜の後期日程の志願者を把握する方策。

(来学受験させるか、後期試験の時期にレポートを郵送させる。)

×⑤ 専門高校対策は、すでに配慮されている。(不要)

(3) 選抜資料について

未① 調査書

- ・ 入学後の成績(GPA)と最も相関があり、高校3年間の累積記録として有為であるので、「成績評定値」を、実際の選抜に使用する。
- ・ 「評定値」の高校間格差は、全国共通の「入試センター試験」で補正する。
- ・ 当面、「調査書」「センター試験」「総合学力試験」の3者相関により選抜する。
(これまでのデータによりシミュレーションを行い、選抜上の違いを調べる。後期は、
センター試験と調査書のみであり、早期に試行可能である。)

※「センター試験」と「調査書」で選抜可能となれば「第2次試験」が不要となることも考えられる。

- ・その他の記録(「特別活動の記録」など)は、AO入試、推薦入学で十分活用する。

00② 総合学力試験(第2次試験)

- ・「望ましい学生」を把握するうえで、総合学力試験は必要。
- ・ただし、最近の出題は、当初のネライから乖離してきているので、「作題方針」を明確にし、さらに、「問題ミス」「機密漏洩」を防ぐよう、学部長を中心とした厳格な組織体制で、問題作成にあたる。
- ・総合学力試験の「趣旨」「作題方針」「題材範囲」を明確にし、パンフレットに丁寧に掲載して、志願者に、本学が望んでいる学力についての理解を深める。
- ・「各題の作題趣旨」「配点」「模範解答」を公開できるようにする。
- ×「後期日程」でも、「総合学力試験」は必要だが、「小論文」でも課し、本学が求める学生を選抜すべきである。
(ただし、現行のように、前期日程の補足的募集であれば、あえて来学入試は不要。
レポート提出で足りる。)

00③ 大学入試センター試験

- ・「センター試験」は、「基礎学力」を測るうえで必要。
- ・本学学生の実情から、「国語」をとり入れるべき。
(後期では、総合学力試験を課さないなので、国語を課している。
前期は数学②と国語の組合せで選択も可能である)
- ・配点の変更は、当面考えない。

未(4)その他

- ・入学生の学力低下傾向は否めない。これに伴う「教員負担」軽減のための措置も考慮すべきである。

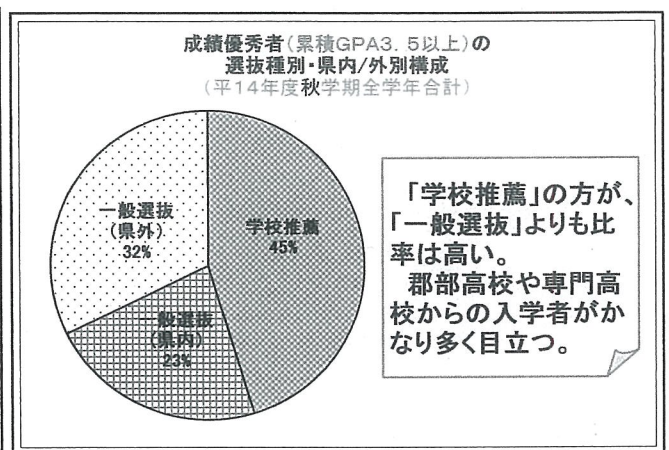
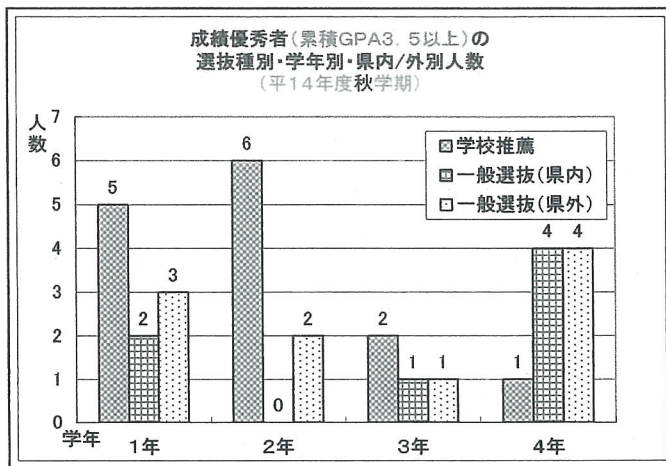
以 上



資料10:「学校推薦」と「一般選抜」入学者の入学後の成績状況調査

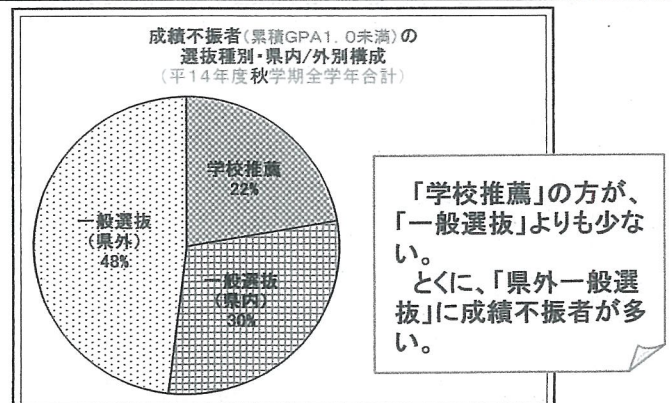
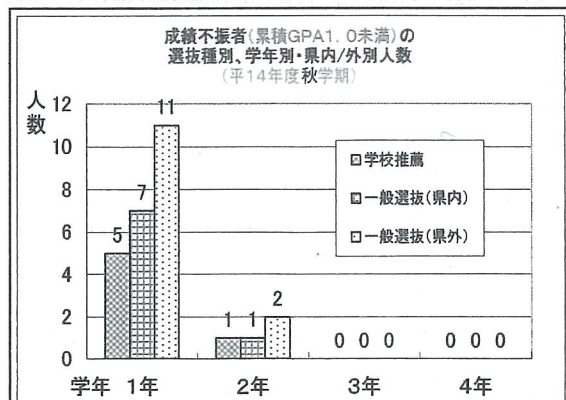
「成績優秀者」(累積GPA3.5以上)の選抜種別、出身高校種別構成 (平成14年度秋学期)

選抜区分	出身高校	学年	1年	2年	3年	4年	合計
学校推薦入学	市部普通		2 戸山、田名部	4 戸山(2)、五所川原、大湊			6
	市部専門		1 三本木農業	1 青森商業			2
	郡部		2 木造、五戸、	1 野辺地	1 鯉ヶ沢1	1 六戸	5
	私立				1 光星学院		1
	学校推薦		5	6	2	1	14
一般選抜入学	市部普通		1 青森高		1 田名部	4 青森北、弘前南、青森東、八戸北	6
	市部専門						0
	郡部						0
	私立		1 山田				1
	一般選抜(県内)		2	0	1	4	7
	一般選抜(県外)		3 県外3	2 県外1、外国1	1 外国1	4 県外3、外国1	10
	合計		5	2	2	8	17
総計		10	8	4	9	31	



「成績不振者」(累積GPA1.0未満)の選抜種別、出身高校種別構成 (平成14年度秋学期)

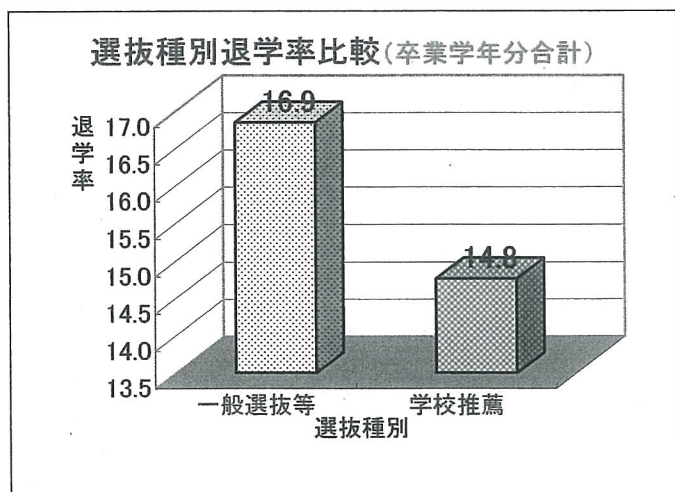
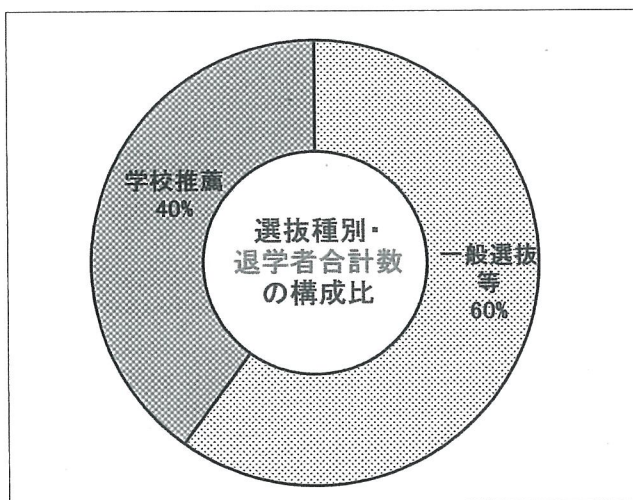
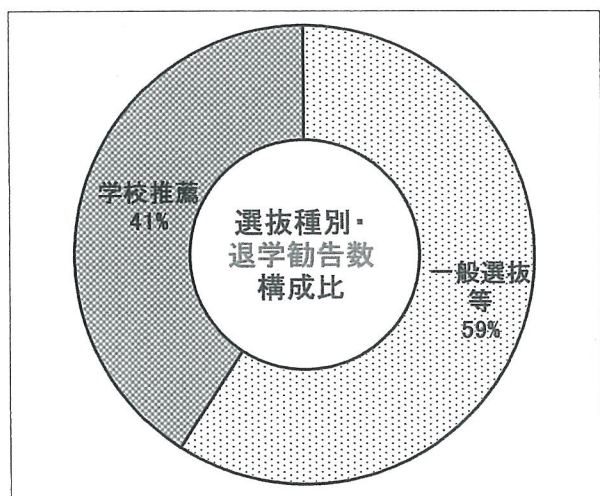
選抜区分	出身高校	学年	1年	2年	3年	4年	合計
学校推薦入学	市部普通		3 青中央、八戸西、三沢	1 青森東			4
	市部専門						0
	郡部		1 中里				1
	私立		1 山田				1
	学校推薦		5	1	0	0	6
一般選抜入学	市部普通		7 青森高、青森東(2)、弘前高 弘前南、弘前中央(2)				7
	市部専門						0
	郡部						0
	私立			1 山田			1
	一般選抜(県内)		7	1	0	0	8
	一般選抜(県外)		11 県外11	2 県外2	0	0	13
	合計		18	3	0	0	21
総計		23	4	0	0	27	



退学種別・入学年度別・選抜種別退学状況 (平15(2003)3月末現在)

退学種別 入学年度等	退学者数									入学者数			退学率			
	退学勧告			自主退学			合計									
	一般選抜等	学校推薦	計	一般選抜等	学校推薦	計	一般選抜等	学校推薦	計	一般選抜等	学校推薦	計	一般選抜等	学校推薦	計	
卒業学年	平5	28	9	37	14	16	30	42	25	67	183	130	313	23.0	19.2	21.4
	平6	11	11	22	7	12	19	18	23	41	181	135	316	9.9	17.0	13.0
	平7	10	9	19	15	8	23	25	17	42	190	135	325	13.2	12.6	12.9
	平8	21	17	38	21	4	25	42	21	63	206	136	342	20.4	15.4	18.4
	平9	14	12	26	19	11	30	33	23	56	192	135	327	17.2	17.0	17.1
	平10	22	6	28	10	4	14	32	10	42	187	135	322	17.1	7.4	13.0
在学学年	平11	11	8	19	6	6	12	17	14	31	181	135	316	9.4	10.4	9.8
	平12	12	16	28	6	1	7	18	17	35	198	135	333	9.1	12.6	10.5
	平13	13	10	23	6	4	10	19	14	33	195	132	327	9.7	10.6	10.1
	平14	0	0	0	4	2	6	4	2	6	179	129	308	2.2	1.6	1.9
合計	142	98	240	108	68	176	250	166	416	1892	1337	3229	13.2	12.4	12.9	
卒業学年(平5~10)小計(再)	106	64	170	86	55	141	192	119	311	1139	806	1945	16.9	14.8	16.0	

※退学率=退学者数÷入学者数×100



コメント

退学勧告による退学者数から見ても、退学者の合計数から見ても、いずれも、「学校推薦」の方が「一般選抜」の入学者より退学者実数は少ない。

また、退学率(入学者数に対する退学者数の比)を見ても、「学校推薦」の方が圧倒的に退学率は低く、「学校推薦」は、「一般選抜」よりも、アドミッション・ポリシーに適った適性の者が入学する傾向が強いと言える。

資料11：入試委員会規程

青森公立大学学部入試委員会規程

(趣旨)

第一条 この規程は、青森公立大学学部入試委員会の設置、組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第二条 青森公立大学経営経済学部の入学試験の実施等に関し、その適正を期するため、青森公立大学学部入試委員会を置く。

(所掌事項)

第三条 委員会の所掌事項は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 学生の募集に関する事項
- 二 入学者選抜の実施に関する事項
- 三 入学者選抜の出題に関する事項
- 四 入学者選抜の判定に関する事項
- 五 その他入学者選抜に関し教授会から委任された事項

(組織)

第四条 委員会は、次の者をもって組織する。

- 一 学部長
- 二 学部長が指名した教職員
- 三 副学長
- 四 事務局長

(任期)

第五条 前条第二号の委員の任期は、一年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

- 第六条 委員会に委員長を置き、学部長をこれに充てる。
- 2 委員会に副委員長を置き、副委員長は、委員長が指名する。
- 3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(会議の招集)

第七条 委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

(会議の成立)

第八条 委員会は、委員の三分の二以上の出席により成立するものとする。

(委員以外の出席)

第九条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又は意見を述べさせることができる。

(事務)

第十条 委員会の事務は、事務局学務課において処理する。

(委任)

第十一条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成十三年四月一日から施行する。

資料 12 : 入試情報公開・開示取扱要綱

青森公立大学経営経済学部入試情報公開・開示取扱要綱

2001.12.18 01年度第14回学部入試委員会承認
2002. 1.16 01年度第8回部局長会議承認
2002. 1.23 01年度第9回学部教授会承認

(趣旨)

第1条 この要綱は、青森公立大学経営経済学部(以下「本学」という。)入学者選抜に関する情報(以下「入試全体情報」という。)の公開及び個人の入学試験成績に関する情報(以下「入試個人情報」という。)の開示について必要な事項を定める。

(公開対象)

第2条 この要綱に基づく公開の対象は、別表第1に掲げる入試全体情報とする。

(開示対象)

第3条 この要綱に基づく開示の対象は、別表第2に掲げる入試個人情報とする。

(開示請求をすることができる者)

第4条 入試個人情報の開示の請求をすることができる者は、別表第2に掲げる対象となる選抜区分に定める入学試験の受験者本人(以下「受験者本人」という。)又は受験者の法定代理人(以下「法定代理人」という。)とする。

(開示請求の時期)

第5条 入試個人情報の開示請求は、当該試験の合格発表日以降に行うものとする。

(開示請求の方法)

第6条 入試個人情報の開示を請求しようとする者(受験者本人に限る。)のうち受験者本人は、入試情報開示請求書(様式第1号)に大学入試センター試験受験票及び本学総合学力試験受験票を添付し、持参又は郵送の方法により学長へ提出するものとする。

2 法定代理人が入試個人情報の開示を請求しようとする場合は、前項に定めるもののほか、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 法定代理人本人を証する書類(運転免許証、旅券等)

(2) 法定代理関係を証する書類(戸籍の謄本又は抄本、家庭裁判所の証明書等)

(開示請求に対する決定等)

第7条 事務局学務課長は、前条の規定による開示請求があったときは、当該開示請求者が第4条に規定する開示請求をすることができる者であるかを確認のうえ、当該開示請求者に係る入試個人情報の開示又は非開示の決定をするものとする。

(開示の時期)

第8条 入試個人情報の開示は、文部科学省が大学入学者選抜実施要項で定める当該年度入学者選抜試験実施期間終了後に速やかに行うものとする。

(開示の方法)

第9条 入試個人情報の開示は、入試情報開示回答書(様式第2号)を郵送の方法により行うものとする。

(公開及び開示業務担当課)

第10条 入試全体情報の公開及び入試個人情報の開示に係る事務は、事務局学務課において処理するものとする。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、入試情報の公開及び開示の実施に必要な事項は、別に定める。

附 則

(実施期日等)

この要綱は、平成14年2月1日から施行し、同日以後に行われる入学者選抜試験に係る情報の公開について適用する。

別表第1 (第2条関係)

項 目	公 開 内 容	情 報 提 供 の 時 期	選 抜 区 分
志願者数	選抜区分別人数	合格発表日以降	一般選抜 学校推薦 自己推薦 外国人留学生特別選抜 海外帰国子女特別選抜 社会人特別選抜
受験者数	選抜区分別人数	合格発表日以降	
合格者数	選抜区分別人数	合格発表日以降	
入学者数	選抜区分別人数	入学者が確定したとき以降	
追加合格者数	選抜区分別人数	入学者が確定したとき以降、求めに応じて	
入学辞退者数	選抜区分別人数	入学者が確定したとき以降、求めに応じて	
出題方針等	出題方針又は出題のねらい	選抜要項発表時	一般選抜・自己推薦
試験問題	総合学力試験問題(一般選抜) 小論文問題(自己推薦)	当該試験が終了したとき以降	一般選抜・自己推薦
試験成績 (合格者統計値)	本学の一般選抜を受験し合格した者の大学入試センター試験合計点の最高点、最低点、平均点、及び総合学力試験の最高点、最低点、平均点	合格発表日以降	一般選抜・自己推薦
正解・解答例	一般選抜における総合学力試験の正解・解答例。ただし、一義的な正解・解答例を示すことが困難な場合については、出題意図等	当該試験が終了したとき以降	一般選抜・自己推薦
採点・評価基準	採点・評価の基準について	当該試験が終了したとき以降	一般選抜・自己推薦
合否判定基準	合否判定の基準について	当該試験が終了したとき以降	一般選抜・自己推薦
入試実施組織	入学試験実施体制のアウトライン	募集要項発表時	一般選抜 学校推薦 自己推薦 外国人留学生特別選抜 海外帰国子女特別選抜 社会人特別選抜

別表第2 (第3条関係)

項 目	開 示 内 容	対 象 と な る 選 抜 区 分
試験成績	大学入試センター試験の科目別得点(素点、利用点) 総合学力試験の得点 大学入試センター試験の得点(利用点)と総合学力試験の得点の合計点	一般選抜



↓新着情報↓

03/11/28

2004年度一般自己推薦合格者及び

2004年度特別自己推薦合格者

画像を直接取り込んでいるため、汚れや文字のかすれにより正しく表示されない場合があります。

合格発表は、必ず掲示を確認してください。

03/11/28

2004年度自己推薦小論文の問題及び採点基準等を掲載しました。

03/10/25

青森公立大学教員の任期に関する規則(PDF)

03/10/10

2004年度青森公立大学大学院学生募集要項

03/09/04

青森公立大学公開講座「SALON DE GIRON 暮らしと学問 姉妹編」について

03/07/01

青森公立大学ハラスメント対策について

03/05/28

MESE 意思決定シミュレーションのページを更新しました

03/05/12

青森公立大学入学者選抜方法の変更について

03/04/11

個人研究費支給への成果主義の導入について

02/12/10

「青森公立大学将来構想」について

過去の更新履歴

* お問い合わせ

〒030-0196

青森県青森市大字合子沢字山崎 153 番地 4

青森公立大学

TEL017-764-1555(代表)

* 製作・管理

青森公立大学

総務課 情報管理係

e-mail [はこちら](#)

↓青森公立大学情報↓

大学紹介

大学設備

大学院情報

地域研究センター

大学へのアクセス

図書館

教員プロフィール

入試情報

青森公立大学広報

教員・学生のホームページ

国際交流ハウス

アダム・ミキエヴィツァ像

リンク集

「入試情報」(目次)は次ページへ

青森公立大学 入試情報

最終更新日 2003年7月1日

■ 選抜概要

[青森公立大学の概要](#)

[2004年度入学者選抜の概要](#)

[学生募集要項の配布について](#)

■ 推薦入学について

[2004年度学校推薦要項](#)

[2004年度自己推薦要項](#)

[自己推薦の選抜方法](#)

[「自己推薦」で求める学生像](#)

[次ページへ](#)

■ 一般選抜について

[2004年度一般選抜\(前期/後期\)要項](#)

[総合学力試験について](#)

[次々ページへ](#)

■ その他の選抜について

[海外帰国子女特別選抜について](#)

[社会人特別選抜について](#)

[外国人留学生特別選抜について](#)

■ 2003年度選抜状況

[総括表](#)

[推薦入学](#)

[一般選抜](#)

[2003年度入学者選抜実施状況\(実績\)\(PDF形式\)](#)

❓ 入試に関するお問い合わせ先 ❓

青森公立大学 学務課 入試係

〒030-0196

青森県青森市大字合子沢字山崎 153 番地 4

TEL : 017-764-1555

FAX : 017-764-1544

入試情報

青森公立大学の概要

選抜概要

青森公立大学の概要

入学者選抜の概要

学生募集要項の

配布について

推薦入学について

学校推薦要項

自己推薦要項

自己推薦の選抜方法

「自己推薦」

で求める学生像

一般選抜について

一般選抜要項

総合学力試験

特別選抜について

海外帰国子女

特別選抜

社会人特別選抜

外国人留学生

特別選抜

2003年度選抜状況

総括表

推薦入学

一般選抜

《入試情報TopPageへ》

青森公立大学とは…？

青森公立大学は、1993年（平成5年）4月、青森市と周辺の町村が共同で設置した「新しいタイプの公立大学」です。また、日本の大学改革のために、先駆けて積極的に新しい考えを打ち出して誕生した教育の理想を求める大学です。

そして、1997年（平成9年）4月に、大学院（修士課程）も開設し、学部～大学院の「一貫教育体制」が整えられた、日本で有数の経営経済系の単科大学です。

学部・学科及び入学定員

経営経済学部 経営経済学科 入学定員300名

「経営経済学部」とは…？

全世界が未だ体験したことがない先行きが不透明で複雑な現代社会にあって、これから、私たちがより良く生き抜いて行くためには、社会現象の本質を正確に把握し解明していくための「経済学」と「経営学」の両方の領域にわたっての複眼的・統合的思考力を身につけることが必須です。「経営経済学部」は、21世紀社会に生き、積極的に活躍する人材を育成するための新しい学部です。

教育目標は…

私たちは、「教育に責任を持つ！」を合言葉にして、21世紀の情報化社会、国際社会に生きる「専門性を持った教養人」を、自信を持って送り出すことを教育目標としています。

教育の基本方針は…

青森公立大学は、みずみずしい感受性を持ち、知的探究心に燃えて本当に学ぼうとする若者たちに開かれた「学問探究の場」です。高校までに培った基礎的・基本的知識・技能をもとに、「自分で考えていく場」を提供する本学には、従来よく見られた単なる「詰め込み型」の教育はなく、次の3点を、教育の基本方針としています。

1. 多くのことを教えすぎない
2. 教えるべきことは徹底して教える
3. 常に「何故か」の問いを発し、自らの頭で考える知的訓練を課し、創造力を育てる

教育の内容（カリキュラム）は…

1. 1年次から「経営・経済の専門科目」を！
1年次に経営、経済の基礎科目を徹底的にマスター、2年次から展開科目で内容をより深め、経済学と経営学の統合へと進みます。そして3年次からは、産業界で活躍中の実務家による、実習と講義が始まり、また、職場実習を行うなど、実践的職業人の育成を目指します。
2. 「教養科目」は、物の見方・考え方が身についた2年次から。
教養教育では、「自分の生き方」を深く考え追求します。知を求める態度を育む基本的な科目のほかに、実務家による、その時々々の社会の要請、話題など、バラエティに富んだ科目を組み入れ、時には、実習・見学を交えて体験的に学びます。

3. 学問の基礎「アカデミック・コモンベシックス」は、全学年を通して徹底的に!

「外国語能力」と「コンピュータ技能」そして「自己表現能力」の3つは、学問を行うためのコモンベシックス（常識としての基礎）であるとともに、私たちが、これからの21世紀社会に生きていくためには、避けては通れない必須の素養でもあります。

本学では、「外国語教育」として、英語またはロシア語を選択します。

「情報教育」は、コンピュータを自在に利用する技能の基礎から専門的技能まで、4年間にわたり学ぶことが出来ます。

「自己表現能力」を培うための「コミュニケーション・スタディーズ」は、自分の考えを積極的に述べることによってコミュニケーション能力が身につく科目ですが、日本の大学では、まだ、ほとんど行われていない本学の最も特色ある科目の一つとなっています。

3年で大学を卒業できる

優秀な成績評価で定められた卒業単位を取り、卒業資格が得られれば、3年間で本学を卒業することができるようになりました。

学部～大学院の一貫教育の実現

学部の3年生～4年生に在学中から、本学の大学院の講義が受けられます（大学院科目のために新たな費用負担はかかりません）。大学院入学後は、あらかじめ修得した単位が認められますので、大学院在学1年で修了し「修士」の学位を得ることが出来ます。

この一貫教育体制は、全国の経営、経済系の単科大学では、本学が、いち早く取り上げたものです。

詳細は「[大学紹介](#)」へ

入 試 情 報

総 合 学 力 試 験 に つ い て

選 抜 概 要

- ・ [青森公立大学の概要](#)
- ・ [入学者選抜の概要](#)
- ・ [学生募集要項の配布について](#)

推 薦 入 学 に つ い て

- ・ [学校推薦要項](#)
- ・ [自己推薦要項](#)
- ・ [自己推薦の選抜方法](#)
- ・ [「自己推薦」で求める学生像](#)

一 般 選 抜 に つ い て

- ・ [一般選抜要項](#)
- ・ [総合学力試験](#)

特 別 選 抜 に つ い て

- ・ [海外帰国子女特別選抜](#)
- ・ [社会人特別選抜](#)
- ・ [外国人留学生特別選抜](#)

個別学力検査で実施する「総合学力試験」は、経営経済学部において学ぶために必要な理解力、論理力、発想力、文章表現力等の基礎学力を見ることを目的とします。内容は、国語I・国語II（ただし、近代以降の文章のみ）、数学I・数学Aまでの学習範囲を中心として、現代の社会・経済現象に関する資料や図表を提示し、主に記述式の解答を求めます。

総合学力試験の問題及び解答例(配点)はこちら(別ページで表示されます)

[>2003年度実施総合学力試験のねらい、問題及び解答例\(配点\)](#)

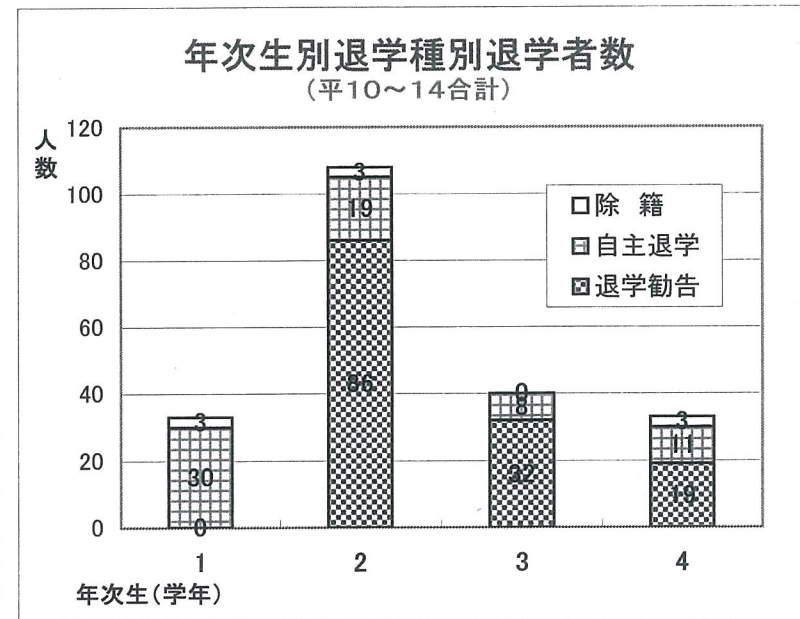
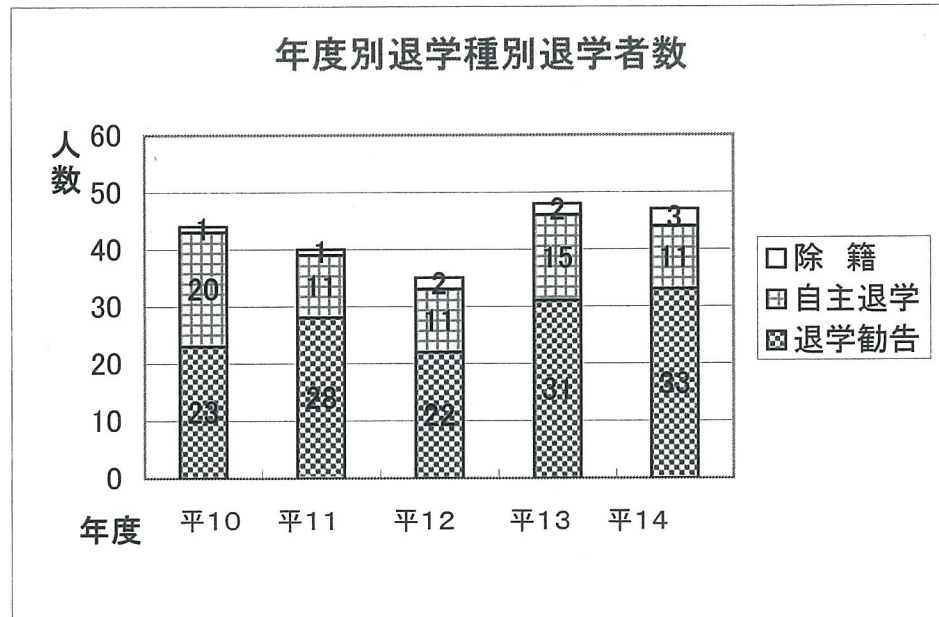
[>2002年度実施総合学力試験のねらい、問題及び解答例\(配点\)](#)

[>2001年度実施総合学力試験のねらい、問題及び解答例\(配点\)](#)

資料14:年度別 退学種別 退学者数 (平14年度末現在)

年度・年次 退学種別	平成10年度					平成11年度					平成12年度					平成13年度					平成14年度					合 計				
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計
退学勧告	0	16	1	6	23	0	17	6	5	28	0	10	9	3	22	0	20	8	3	31	0	23	8	2	33	0	86	32	19	137
自主退学	7	7	3	3	20	7	3	1	0	11	4	2	2	3	11	6	3	2	4	15	6	4	0	1	11	30	19	8	11	68
除 籍	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	2	2	1	1	0	1	3	3	3	0	3	9
合 計	7	24	4	9	44	8	20	7	5	40	5	13	11	6	35	6	23	10	9	48	7	28	8	4	47	33	108	40	33	214

(注) 4年次生には、4年以上在籍者を含む。



資料15:理由別退学者数等調 (平10~14年度)

理由	退学勧告	健康上	経済的	進路変更	一身上	その他	除籍	合計
平10	23	1	1	10	5	3	1	44
平11	28	0	1	9	1	0	1	40
平12	22	0	0	4	3	4	2	35
平13	31	1	1	10	0	3	2	48
平14	33	0	0	10	0	1	3	47
合計	137	2	3	43	9	11	9	214

(注)「進路変更」の内訳

他大学へ進学…(11名)
 専門学校へ進学…(4名)
 就職・その他…(28名)

「その他」の内訳

学習意欲喪失…(5名)
 学業不振…(3名)
 その他…(3名)

「除籍」の内容

授業料未納
 死亡ほか

